

# 2024年度 6人制ルールの取り扱いについて

2024, 2, 23

## 【1】 プレーの動作に関する事項

### 9.2 ヒットの特性

9.2.1 ボールは身体の中のどの部分で触れてもよい。

9.2.2 ボールをつかむこと、投げることは許されない。ボールはどの方向にはね返ってもよい。

### 9.3 ボールをプレーするときの反則

9.3.1 フォアヒット：チームが返球する前にボールを4回ヒットすること。

(規則 9.1, 第 11 図⑩)

9.3.2 アシステッドヒット：選手が競技エリア内でボールをヒットするために、チームメイトまたは構造物や物体からの助けを得ること。(規則 9.1.3)

9.3.3 キャッチ：ボールをつかむ、または投げる。この場合、ボールはヒット後、接触しているところから離れない。(規則 9.2.2, 第 11 図⑪)

9.3.4 ダブルコンタクト：1人の選手が連続してボールを2回ヒットすること、またはボールが1人の選手の身体の上のさまざまな部分に連続して触れること。

(規則 9.2.3, 第 11 図⑫)

#### (注)

- 1 プレーのハンドリング基準は、すべて同一である。
- 2 ボールは、クリアにヒットされなければならない。ボールをヒット後、接触している部分から離れないと判断された場合はキャッチの反則となる。
- 3 ボールをつかむ、投げる、ボールの方向を変える、持ち上げる。このようなプレーはキャッチの反則となることがある。ファーストレフェリーは、ボールが接触している状況を的確に判定する。
- 4 特にオーバーハンドパスにおいて、手の中に止まるケースや長くとどまるようなプレーは、キャッチの反則となる。

## 12.3 サービスの許可

ファーストレフェリーは両チームがプレーする準備ができて、サーバーがボールを持っていることを確認した後にサービスを許可する。(第 11 図⑬)

#### (注)

- 1 コート上に5人だけ、または7人の選手がいるときには6人になるよう、またポジション4にリベロが上がった場合は正規の選手にリプレイメントするよう、サービスのホイッスルの前に促す。  
もしファーストレフェリーがそのことに気づかずにサービスのホイッスルをした場合、およびラリーが始まったり完了した場合、ファーストレフェリーはそのことに気づいたら直ちに罰則無しにラリーをやり直さなければならない。

## 【2】 競技参加者の行為に関する事項

### 20.1 スポーツマンにふさわしい行為

20.1.1 競技参加者は公式バレーボール規則に通じていなければならない。また、それを忠実に守らなければならない。

### 20.2 フェアプレー

20.2.1 競技参加者はレフェリーだけでなく、他の役員、相手チーム、チームメイト、さらに観衆に対してもフェアプレーの精神で敬意を示し、礼儀正しく行動しなければならない。

#### (注)

- 1 ファーストレフェリーの判定に対するゲームキャプテンの質問は受け入れるが、その内容がルールの取り扱い等に関する質問ではなく、判定に対する抗議や意見を述べる等の場合やゲームキャプテン以外の選手が質問に来た場合は、拒否する。
- 2 競技参加者が、規則 20 に反した場合、警告する。繰り返した場合は、ペナルティを科す。
- 3 不法な行為については、その程度に応じて、適切な処置を行う。
- 4 競技参加者が、レフェリーに向かって判定に対して執拗に抗議するような態度をとった場合、警告する。繰り返した場合は、ペナルティを科す。

#### 【主にステージ 1 に該当するケース】

- ①ファーストレフェリーが最終判定を出した後にもレフェリーに不満を示す態度や言葉を発した場合。
- ②ファーストレフェリーがゲームキャプテンの質問に答えた後にも、さらに論争を長引かせるようにした場合。
- ③規則の適用や解釈でない内容の質問が、ゲームキャプテンから繰り返された場合。
- ④一度指導されているのに、再びゲームキャプテン以外の選手が判定に対して質問をした場合。
- ⑤ネット越しに相手の選手などに対して、ガッツポーズ等牽制する行為などがあった場合。

#### 【主にステージ 2 に該当するケース（直接イエローカードを出すケース）】

- ①ファーストレフェリー、セカンドレフェリーやラインジャッジの判定に対して抗議や不服的な態度を必要以上に示した場合。
- ②ファーストレフェリー、セカンドレフェリーやラインジャッジの判定に対して、ベンチスタッフや控えの選手がベンチから飛び出して判定に異議を訴えた場合。
- 5 監督がセカンドレフェリーやスコアラーに話しかけることができるのは、リベロの再指名の時や得点が正しくない時などの声かけ程度のものであり、説明を求めたり、長く話しかけるようなことはできない。
- 6 試合終了後、監督・ファーストレフェリー・セカンドレフェリーはフェアプレーの精神でお互いに「握手」を交わす。



### 【3】 プレーの構造に関する事項

#### 7.4 ポジション

サービスヒットの瞬間、両チームは（サーバーを除き）それぞれのコート内でローテーション順に位置していなければならない。

7.4.3 選手のポジションは次のとおりコート面に接している両足の位置（最後にコート面に接触していた部分）により決定し、コントロールされる。

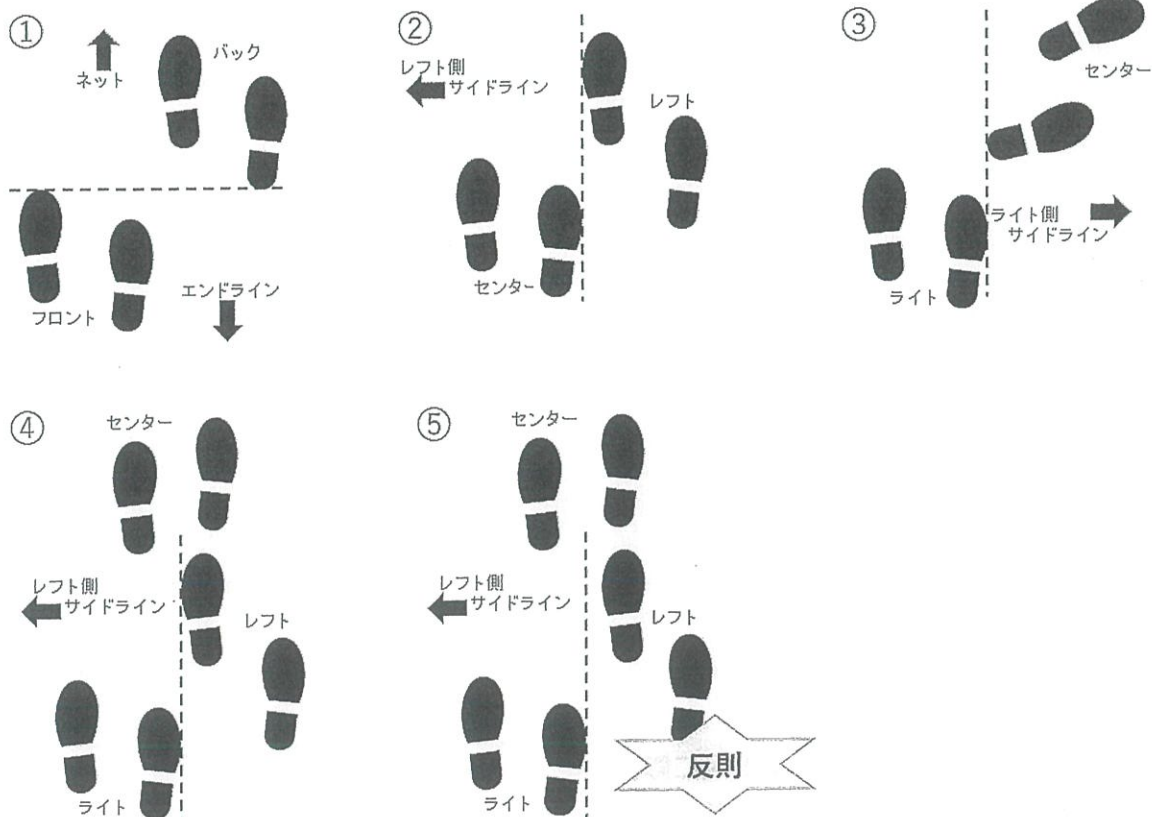
7.4.3.1 各バックプレーヤーは対応するフロントプレーヤーと同じ位置にいるか、少なくとも片方の足の一部が対応するフロントプレーヤーの前の足よりセンターラインから遠い位置にいなければならない。

7.4.3.2 ライト（レフト）サイドの各選手は同じ列の他の選手のライト（レフト）側から遠くにある足と同じ位置か、少なくとも片方の足の一部がライト（レフト）のサイドラインに近い位置にいなければならない。

#### （注）

- 1 サービスヒットの瞬間に、完全に入れ替わり反則となっているケースがあるため、レフェリーはポジションを常に把握しなくてはならない。
- 2 サービスヒットの瞬間に、コート面に接している足がない場合、最後にコート面に接触していた部分を基準とする。

下図①から④はいずれも反則とならない。



## 【4】 チームリーダーに関する事項

### 5.1 キャプテン

5.1.2 試合中、チームキャプテンはコートに入っているときにはゲームキャプテンとなる。チームキャプテンがコート上にいないときは、監督またはチームキャプテンは、ゲームキャプテンの役割を担うコート上の選手を指名しなければならない。指名されたゲームキャプテンは、選手交代で退くか、チームキャプテンがプレーに復帰するか、またはそのセットが終了するまでその責務を担う。

ボールがアウトオブプレーのとき、ゲームキャプテンだけが次の場合にレフェリーへの発言を許可される：

5.1.2.1 競技規則の適用や解釈について説明を求める。チームメイトの要求または質問を伝える。ゲームキャプテンがファーストレフェリーの説明に納得できない場合は、ファーストレフェリーの決定に対する抗議を選択してもよい。その場合、試合後にスコアシートに正式抗議を記入する権利を確保するため、直ちにファーストレフェリーに申し出る。

(規則 23.2.4)

### 5.2 監督

5.2.1 監督は試合を通してコートの外からチームのプレーを指揮する。また、スターティングラインアップと交代選手を選び、タイムアウトを要求する。これらの役割に関わるのはセカンドレフェリーである。

5.2.3.1 各セットの開始前、正しく記入されたラインアップシートにサインして、セカンドレフェリーまたはスコアラーに提出する。タブレットを使用する場合は送信されたラインアップが公式のものとみなされる。

5.2.3.4 他のチームメンバーと同様にコート上の選手に指示を与えてもよい。

ウォームアップエリアが競技コントロールエリア内のコーナーにある場合、試合を妨げたり遅らせたりしなければ、自チームベンチ前のアタックラインの延長線からウォームアップエリアまでのフリーゾーン内で、立ちながら歩きながらでも指示を出すことができる。ウォームアップエリアがチームベンチの後方にある場合は、自チームのコートのアタックラインの延長線からエンドラインまで移動してもよいが、ラインジャッジの視界を遮ってはいけない。

#### (注)

- 1 試合中に監督をはじめチームスタッフやゲームキャプテン以外のチームメンバーが、レフェリーに質問等、発言をすることはできない。
- 2 監督が、試合中、自チームベンチ前のフリーゾーン内で、立ちながら歩きながら指示を出している場合、ラインジャッジ（特にL2・L3）の判定の妨げにならないようにレフェリーが注意する。  
ラリー終了後、レフェリーの判定に影響を及ぼす行為に対しては、直ちに罰則を適用する。
- 3 セット間の時間は前のセットが終了後、次のセットが開始されるまで3分間である。  
したがって、前のセット終了後2分30秒でホイッスルをし、スターティングメンバーをコートに入れ、ラインアップを確認する。そのためにセカンドレフェリーは、積極的に次のセットのラインアップシートの提出を監督に要求する。

## 【5】 中断、遅延行為とインターバルに関する事項

### 15.4 タイムアウト

15.4.1 タイムアウトは、ボールがアウトオブプレーでサービスのホイッスルの前に、該当するハンドシグナルを示して要求しなければならない。チームの要求によるすべてのタイムアウトは30秒間である。(第11図④)

15.4.2 すべてのタイムアウトの間、プレー中の選手は自チームベンチ近くのフリーゾーンに出なければならない。

#### (注)

- 1 タイムアウトに入ったら、コートから離れなくてはならない。ただし、その位置については制限されない。
- 2 タイムアウトは30秒間であるが、選手は、30秒を待たずにコートに戻ってもよい。ただし、タイムアウトの時間が短くなることはない。



# 2024年度 9人制ルールの取り扱い

2024.2.23

## 【1】中断に関する事項

### 第10条 第1項 試合の中断

次の場合は、試合を中断する。

- |                   |        |
|-------------------|--------|
| (1) セット間の中断       | (第11条) |
| (2) タイムアウト        | (第12条) |
| (3) 選手交代          | (第13条) |
| (4) 特殊な事情による試合の中断 | (第17条) |

### 第2項 試合の再開

前項の試合の中断後は次により試合を再開する。

- (1) タイムアウトおよび正規の選手交代の場合は、中断したときのサーバー（サーバーが交代したときは、その交代選手）の第1サービスで再開する。
- (2) 特殊な事情による試合の中断によりノーカウントとなった場合は、中断したときのサーバーの中断したときのサービス（第1または第2サービス）で再開する。  
この中断によりコートが変更になったときでも、中断したときの公式記録を有効として、中断したときのサーバーの中断したときのサービス（第1または第2サービス）で再開する。  
ただし、同日中に試合を再開できないときはその試合はやり直しとする。

(注)

これまでの競技規則では、「他のコートからボールが侵入し、ラリーが「ノーカウント」となった場合は、第2サービスで始まったラリーであっても、第1サービスから再開する。」としていたが、今年度の競技規則の改正により「中断したときのサーバーの中断したときのサービス（第1または第2サービス）で再開する。」となったので、特に第2サービスで始まったラリーは審判団で管理し運営する。

## 【2】特殊な事情による試合の中断に関する事項

### 第17条 特殊な事情による試合の中断と処置

次のような事情で試合を中断する必要があるときは、インプレー中でも直ちにプレーを停止しノーカウントとする。同日中に試合の再開が不可能なときは、試合は延期または中止とする。

- (1) 他のボールや他のコートの選手がコートに侵入し、プレーの妨げとなったとき。
- (2) 照明などの設備や競技用具が破損または故障したとき。
- (3) 天候の異変、地震等その他やむを得ない事故が発生したとき。
- (4) 何らかの理由により審判員がプレーを停止し、そのラリーがやり直しとなったとき。  
これらの場合の試合の再開は第10条第2項に定めるところによる。

(注)

- 1 インプレー中にプレーを停止したときは、ノーカウントのハンドシグナルを示す。
- 2 得点を伴わないラリーの中断後は、ラリーが完了していないので、すべての試合中断の要求が認められない。

### 【3】タイムアウトに関する事項

#### 第12条 タイムアウト

- 1 タイムアウトはラリー完了後、次のサービス許可の吹笛までに監督が、監督がいない場合はゲームキャプテンが主審または副審にハンドシグナルを示して要求しなければならない。
- 2 タイムアウトの時間は1回について30秒間とし、1セットに2回または2回を連続して要求することができる。
- 3 タイムアウトの間、プレー中の選手は自チームベンチ近くのフリーゾーンに出なければならない。ただし、他の試合の妨げとならない限りエンドライン後方のフリーゾーンでボールを使用しないでウォームアップをすることができる。

#### (注)

- 1 タイムアウトに入ったら、コートから離れなくてはならない。ただし、その位置については制限されない。
- 2 タイムアウトは30秒間であるが、選手は、30秒を待たずにコートに戻ってもよい。ただし、タイムアウトの時間が短くなることはない。

### 【4】サービスに関する事項

#### 第23条 第3項 サービスの反則

次のいずれかに該当するときはサービスの反則とする。

- (1) サービス順を誤ってサービスをしたとき（サービス順の誤り）。
- (2) サービスの失敗を2回続けたとき（ダブルフォルト）。（第23条第2項）

#### (注)

チームがサーバーについて審判団より誤った情報を与えられたとき、そのセットが進行した後に誤りが発覚した場合、誤った情報が与えられた時点の状態にサービス順を戻し、得点も誤った情報が与えられた時点まで戻す。タイムアウト、罰則はそのまま有効とする。  
これらの事実は記録用紙に記録されなければならない。

### 【5】試合の遅延に関する事項

#### 第26条 第2項 試合の遅延に対する処置（第5表）

- 2 遅延警告の罰則が適用された場合は、同じ中断中に中断の要求をすることはできない。

#### (注)

- 1 遅延警告が適用された場合、同じチームによる試合中断の要求は、次のラリーが完了するまで認められない。（けがや病気による選手交代を除く）
- 2 不当な要求を繰り返したことにより遅延警告となった場合も、同様の取り扱いとする。



2. 第17条 特殊な事情による試合の中断と処置

次のような事情で試合を中断する必要があるときは、インプレー中でも直ちにプレーを停止しノーカウントとする。同日中に試合の再開が不可能なときは、試合は延期または中止とする。

- (1) 他のボールや他のコートの選手がコートに侵入し、プレーの妨げとなったとき。
- (2) 照明などの設備や競技用具が破損または故障したとき。
- (3) 天候の異変、地震等その他やむを得ない事故が発生したとき。
- (4) 何らかの理由により審判員がプレーを停止し、そのラリーがやり直しとなったとき。  
これらの場合の試合の再開は第10条第2項に定めるところによる。

➡事情を追加した。

3. 第21条 ネット付近でのプレー

第2項 ネット上の同時プレー

- (1) そのボールがアンテナに触れ、またはアンテナの上方を通過したときはノーカウントとし、プレーはそのときのサーバーのそのときのサービス（第1または第2サービス）でやり直しとする。

➡ノーカウント時に再開するサービスを変更した。

4. 第22条 ダブルファウル

両チームの選手が同時に反則をしたときはダブルファウルであり、不法な行為（第27条）による場合を除きノーカウントとする。試合は同じサーバーのそのときのサービス（第1または第2サービス）で再開する。

➡ノーカウント時に再開するサービスを変更した。

5. 第29条 主審

第2項 責務

2 試合中

- (4) インプレー中に生じたノーカウントの後のサービスはそのサーバーのその時点のサービス（第1または第2サービス）で試合を再開する。（第17条、第21条第2項(5)、第22条）

➡ノーカウント時に再開するサービスを変更した。

● 修正点

1. 第1条 競技場

第2項 コート(第1表)

➡種別の統一。

2. 第2条 ネットおよび支柱(第2表)

第2項 均一性

➡種別の変更。

3. 第3条 ボール

第1項 規格(第3表)

➡種別の変更。

4. 第5条 競技参加者の権利と義務

第2項 監督

3 監督は試合中、

- (1) チームベンチの最も記録席に近い場所に座るか、試合を妨害したり遅延させない限り、自チームベンチ前の選手交代ゾーンを除いたフリーゾーン内で立ちながらも歩きなからでも指示を出すことができる。

➡文言の変更。



# 各種ルールの改正点・修正点について

2024年度の各種ルールブックの編集にあたり、主な改正点・修正点について報告致します。

## 1 6人制改正点・修正点

本競技規則は、2021年10月にFIVBより「ルールブック2021-2024」としてホームページで公表されたものであり、2024年度はルールの改正はない。

本年度のルールブックも「英文併記」とし、『ケースブック』についてもケース番号に『ビデオ』と記載した項目についてはインターネット上にサイトを作成し、ルールブック巻末にそのサイトのURLとQRコードを記載しFIVBのCASEBOOKの動画ビデオを見ることができるようにした。

以下が本年度の主な修正点である。

### ●修正点

1. 「ディレイワーニング」を「ディレイウォーニング」に表記変更した。
2. スコアシート記入法を多くの方に理解していただけるように修正し、スコアラーの責務について記載を追加した。
3. フロアモッピングシステムを統一した。
4. 規則をより読み易くするため、単語訳や表記を見直し、字句を修正した。
5. ケースブックをより読み易く理解しやすいように表現を一部修正した。

## 2 9人制改正点・修正点

今年度についても、これまでのラリーの継続を踏襲し、プレーをする側も、観る側も理解しやすいよう競技規則を見直した。具体的には特殊な事情等によりプレーがノーカウントとなった場合において、公平性を保つために試合再開時のサービスについて改正を行った。またその他、日頃から公益財団法人日本バレーボール協会（JVA）に寄せられた9人制競技規則に対する意見等も参考に、条文の表現を平易にしてより分かりやすい競技規則になるよう心掛けて編集にあたった。

以下が本年度の主な改正・修正点である。

### ●改正点

#### 1. 第10条 試合の中断と再開

##### 第2項 試合の再開

前項の試合の中断後は次により試合を再開する。

- (1) タイムアウトおよび正規の選手交代の場合は、中断したときのサーバー（サーバーが交代したときは、その交代選手）の第1サービスで再開する。
- (2) 特殊な事情による試合の中断によりノーカウントとなった場合は、中断したときのサーバーの中断したときのサービス（第1または第2サービス）で再開する。

この中断によりコートが変更になったときでも、中断したときの公式記録を有効として、中断したときのサーバーの中断したときのサービス（第1または第2サービス）で再開する。ただし、同日中に試合を再開できないときはその試合はやり直しとする。

➡特殊な事情による試合の中断を再開するサービスを変更した。

### 第3項 キャプテン

4 チームキャプテンは試合中、

- (1) 監督がいないときに他の選手と交代してコートを離れるときは、コート内の選手の中からゲームキャプテンを指名する。チームキャプテンはチームベンチに退いている間はキャプテンとしての権利を失い、コート内に戻ったときは自動的にゲームキャプテンとなる。

➡監督がいない場合を追加した。

### 5. 第12条 タイムアウト

- 3 タイムアウトの間、プレー中の選手は自チームベンチ近くのフリーゾーンに出なければならない。ただし、他の試合の妨げとならない限りエンドライン後方のフリーゾーンでボールを使用しないでウォームアップをすることができる。

➡文言の変更。

### 6. 第30条 副審

#### 第1項 権限

- 1 副審は主審の補佐であるが、自身の責務範囲を持っている。(第30条第2項)

➡権限を変更した。

#### 第2項 責務

##### 2 試合中

- (9) 主審から見えない位置で生じたホールディングおよびドリブルの反則やオーバータイムスの反則を確認したときはハンドシグナルのみで主審に合図する。

➡オーバーネットを削除した。

### 7. 第31条 記録員

#### 第2項 責務

##### 2 試合終了後

- (3) ゲームキャプテンが競技規則の適用解釈についての異議を公式記録用紙に記録することを求めているときは、その内容を記入する。この場合、チームキャプテン自身に記入させてもよい。

➡文言を変更した。

### 8. 第33条 公式ハンドシグナル

#### 第7図 審判員の公式ハンドシグナル

➡凡例の変更。

### 9. 付録(4) ケースブック

- 3-8-1 ➡ ルールの内容変更  
3-8-2 ➡ ルールの内容変更  
3-5-18 ➡ ケース, ルールの内容変更  
4-7-5 ➡ ルールの内容変更  
5-1-5 ➡ ルールの内容変更